

たかねやま のろしだい
高根山の烽火台
(緒川新田)

おがわしんでん たかねやま ひょうこう
緒川新田の高根山は、標高八十三・一メートルで、高い山のない知多半島北部では、いちばん高い山です。

えどじだい きやうほ ねん
江戸時代の享保十八年（一七三三）、八月、第七代の尾張藩主、徳川宗春は、知多半島を巡視した時に、緒川村に数日滞在しました。その時、見はらしのよいこの高根山から名古屋城が眺められるのがすっかりお気に召され、「望城が丘」と名づけたと言われています。



▲ いま かいはつ おもかげ むかし たかねやま
今は開発されて面影もなくなった昔の高根山

その後、江戸時代も終わりごろになって、外

この船が日本近海に現れ、開港を迫るようになり
ました。そこで、尾張藩では、海岸の警備を
固める目的で、大井、布土、長尾、亀崎、緒川、
大高の六か所に烽火台を作らせました。緒川で
は、ここ高根山の頂上に作られたのです。そ
して、師崎沖に外国船を発見したら、ただちに大
井で烽火を上げ、リレー式に名古屋城へ知らせ
るしくみになっていました。

しかし、この烽火台も実際には使われること
なく開国となり、さらに明治時代を迎えたので
す。大井では、今でも烽火台の跡がはつきりと



残っていますが、高根山の烽火台は、あとか
たもなく消えてしまいました。

むかしは、この高根山の東に、緒川から阿久
比を通り大野へ通じる道もあつて、都からの旅
人がよく行き来したところでした。それで、こ
の高根山が旅路の目じるしとなり、世の中の移
り変わりをじつと眺めてきました。